

大会名 Competition	第73回 秋田県男女総合バスケットボール選手権大会 兼全日本総合バスケットボール選手権大会秋田県代表決定戦
男子決勝	Year Month Day Time 2018 年 4 月 22 日 14 : 00
場所 Place	CNAアリーナ★あきた



秋田県バスケットボール協会

チームA	チームB
<b>J R 東日本秋田</b>	<b>厚生倶楽部</b>
112 ○	69 ●
21 1st 19 32 2nd 17 24 3rd 17 35 4th 16 OT	

主審:Referee 佐藤 匠 秋田  
副審:Umpire 大山 忠則 秋田  
田中 直幸 秋田  
テーブルオフィシャル:Table officials  
県協会 T O 委員会

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
3	×	大矢 孝太朗		2	0	0	2	2	0	／	上村 治弘		2	0	0	2	2
7	／	森 知史		14	0	6	2	0	1	／	志村 泰輔		0	0	0	0	2
8	／	志水 一希		2	0	1	0	1	3	×	草皆 孝之	CAP	5	1	1	0	0
11	×	鈴木 隆史		24	3	5	5	1	8	×	吉川 雄磨		6	0	2	2	2
12	×	根岸 城二		15	1	5	2	3	10	×	渡部 宏斗		4	0	0	4	4
15	×	柳澤 洸太		2	0	1	0	1	11	×	大塚 綾人		12	0	6	0	0
24	／	高橋 純		4	0	2	0	2	12	／	平塚 樹		4	0	2	0	3
30	／	館 龍星		11	0	5	1	3	13	／	伊藤 大士		1	0	0	1	2
33	／	佐藤 光		6	0	2	2	2	15		佐藤 隼		-	-	-	-	0
34	／	菊地 啓志		3	1	0	0	0	17	／	横山 空		5	1	1	0	0
39		櫻庭 朋久		-	-	-	-	0	21		大貫 耕内		-	-	-	-	0
65	／	佐々木 健登		4	0	2	0	0	22	／	草 彌 桂		8	0	4	0	0
91	／	齊藤 大輔		10	1	3	1	0	27		金谷 泰昭		-	-	-	-	0
99	×	山崎 涉真	CAP	15	0	6	3	2	51		筒井 吉仁		-	-	-	-	0
				-	-	-	-	0	56		嵯峨 優翔		-	-	-	-	0
				-	-	-	-	0	71	／	高橋 一成		0	0	0	0	0
				-	-	-	-	0	77	×	ホール ヒュートラック		20	0	9	2	2
				-	-	-	-	0	91	／	青井 佑樹		2	0	1	0	2
コーチ		黒 政 成 広							コーチ		筒井 吉仁						
Aコーチ		若 月 徹							Aコーチ		金谷 泰昭						
合計				112	6	38	18	17	合計				69	2	26	11	19

※×:スター 斜線:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P% イントシュート 2P:2P% イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

第1ピリオド:両チーム共にマンツーマンディフェンスでスタート。開始早々、JR#9山崎のバスケットカウントでゲームが動き出す。そのあとすぐに厚生も、#77ポールのゴール下からの連続ポイントで入れ返す。JRは、#11鈴木からのドライブ、#7森のリバウンドからのシュートで得点を重ねるも、厚生も#12平塚のジャンプシュートなどですぐに入れ返し、一進一退の攻防が続く。JRは、終了間際、#11鈴木がシュートをねじ込み、21対19、JRのリードで終了。

第2ピリオド:JRは、#30館のドライブですぐに得点をするも、厚生は#12平塚のジャンプシュートを入れ返す。早くゲームの流れを掴みたい両チームだが、お互い厳しいディフェンスにより得点を伸ばすことができない時間帯が続いたが、JRは、高さを生かした攻めや、リバウンド争いで優位に立ち、#30館のドライブや、#91齊藤の3PTS、#33佐藤のジャンプシュートなどで得点を重ね、試合の流れを一気に引き寄せる。53対36、JRのリードで前半終了。

第3ピリオド:後半開始早々、厚生#77ポールがゴール下からのシュートをねじ込み、その後もシュートファウルからの、フリースローで得点を重ねる。追いつきたい厚生は、#77ポールの高さを生かした攻めや、#8吉川のドライブからのシュートを軸に攻撃を組み立てるも、JRの力強いディフェンスに阻まれなかなか追いつくことができない。JRは、#65佐々木のドライブ、#30館のジャンプシュートで確実に得点を重ね、77対53JRのリードで終了。

第4ピリオド:厚生は#77ポールを軸にゴール下や、#17横山のジャンプシュートで追いつこうとするも、ファウルトラブルにも見舞われ、逆にJRはフリースローなどで得点を重ねる。厚生は#17横山の3PTS、#10渡部のドライブからのシュートで少しでも点差を詰めようとするも、JRは終始、力強い攻めや厳しいディフェンスを貫き、112対69で勝利。JR東日本秋田が8大会連続14回目の優勝を飾った。